

## トピック1 市町村教育委員会等の取組について

県内の小中学校等における活用を推進するにあたっては、所管の市町村教育委員会等の役割が重要です。その際、まずは、各学校の学力向上に向けた取組をしっかりと「把握する」ことが大切で、その上で、全国学力・学習状況調査の結果と関連付けた的確なアドバイスを行うことができると考えます。また、各校の取組を取りまとめて共有することは、各校が他校の取組を知ることができるため、域内全体としての向上を図ることも期待できます。

### A 成田市教育委員会の取組

成田市教育委員会では、以下の表のように、「各学校の学力向上に向けた取組」について取りまとめています（本書掲載にあたり、当センターで一部編集しています）。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点ごとにまとめられており、調査結果をもとにポイントを絞って評価・検証し、指導・助言を行うことができるよう工夫されています（全国学力・学習状況調査では2観点のみ調査対象となっている）。

なお、この一覧表は、市主催の研修会などにおいて、情報交換等、有効に活用されています。

成田市教育委員会「令和4年度学力上の取組のまとめ（小学校）」※当センター一部編集

観点	知識・技能の向上	思考・判断・表現の向上	主体的に学習に取り組む態度の向上 その他（校内体制、地域人材の活用、家庭への協力等）
キーワード	<b>個の課題に沿った繰り返し学習</b>	<b>考える、表現する場と時間の保障</b>	<b>ふり返りの充実</b>
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の学習の工夫（文章を読む、漢字クイズ）</li> <li>ミニ漢字テスト、漢字検定、言葉に関する小テスト</li> <li>ミニ作文（自由、テーマを決めて、記事を読んで）</li> <li>話を聞く際のメモの取り方の練習</li> <li>年間継続した取り組み（視写、日記）</li> <li>習得した漢字を使った言葉や文を考えて書く</li> <li>「言葉の宝箱」を活用し、語彙を増やす</li> <li>辞書活用の習慣化</li> <li>タイピングアプリを使っているローマ字打ち練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入を工夫し、目標や目的を明確化</li> <li>相手意識、目的意識をもった言語活動（手紙を書く、朝の会でのスピーチ、他校とのリモート交流会）</li> <li>条件付き作文（新聞記事や「ちばっ子チャレンジ」から）</li> <li>定期的短作文を書き、読み合う活動</li> <li>要約を重視した指導</li> <li>印象に残った記述を抜き出し、自分の考えをまとめる活動</li> <li>思考ツールを活用した物語文や説明文の読み取り</li> <li>教科書以外の物語、説明文の読解問題に取り組む</li> <li>考えの根拠を言語化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【国語】</li> <li>・並行読書、読書貯金通帳</li> <li>・詩の朗読（毎朝一言）</li> <li>【算数】</li> <li>・本時のふり返りを書くことの習慣化→そのための時間の確保</li> <li>【社会】</li> <li>・予習プリントで事前学習（反転学習）</li> <li>【その他】</li> <li>・他学年への発表等、交流の機会を設定</li> <li>・学習ゴールを、児童にわかりやすく提示</li> <li>・学習したことを生活に落とし込む</li> <li>・ふり返り（観点をもたせる、全教科で）</li> <li>・挙手児童だけで進めない対話型授業</li> <li>【校内体制】</li> <li>・管理職による定期参観</li> <li>・相互参観</li> <li>・若年層の授業参観、授業実践</li> <li>・全国学力・学習状況調査や市学力調査の全職員によるふり返り、考察（各学年での具体的な指導方法を検討）</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>e ライブラリの活用</li> <li>授業導入時にフラッシュカードで九九のチェック</li> <li>九九チャレンジカード、計算カード</li> <li>ICT 機器を活用し、図形の特徴や数量の変化等を視覚的に捉えやすく工夫</li> <li>様々な単元の内容を混ぜた練習プリントの実施</li> <li>計算検定</li> <li>年間を通じたマス計算の実施</li> <li>難易度別のプリントを用意</li> <li>児童が苦手な箇所について、少人数指導体制を活用した反復練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを説明したり、友達との考えのよさを話し合ったりする場の設定（①自分の考えや解き方を書いたノートを撮影して授業支援アプリで意見共有②課題を授業支援アプリで送信→家庭で考えをまとめる→授業では考えの説明や共有に重点を置いて展開）</li> <li>具体物に触れる、操作する活動を多くする（特に低学年）</li> <li>数直線や図、絵など、イメージしやすい形で問題を表す練習</li> <li>算数の言葉を使っている説明（指示語のみにならないように）</li> <li>自分の言葉で学習問題やまとめを書く時間の確保</li> <li>自分で問題を作成、友達と話し合う（タブレットで共有）</li> <li>式の意味や計算の仕方を説明することの習慣化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の「学力向上部」で、毎月の授業目標（指導者側）を設定</li> <li>・『学習の手引き』を4月に配布し、校内統一のルールを定めることで、誰が授業をしても同様に実践できる環境作り</li> <li>・家庭学習、自学についてリーフレットを作成及びHPに掲載</li> <li>・教科担任制、交換授業の実施（特定の教科、単元、時期で）</li> <li>・習熟度別学習（年間、復習の時間のみ）</li> <li>・学習サポート教員の活用</li> <li>・学校独自のテスト週間、月例テスト実施→家庭への予告、結果通知</li> <li>・ドリル学習時間の確保</li> <li>・宿題を保護者が〇つけ、子どもと直す</li> </ul>
社会 理科 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> <li>【社会】</li> <li>・経度や緯度を理解したり、実際の土地の様子を調べたりする学習におけるICTの活用</li> <li>・歴史学習での年代別小テストの実施</li> <li>・歴史学習での調べ学習→5W1Hの徹底</li> <li>【理科】</li> <li>・実験、観察の機会を増やす（1人1実験、少人数で）</li> <li>・実験器具の取扱い方についてプリントで復習</li> <li>【社会・理科】</li> <li>・NHK 動画視聴による理解の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【社会】</li> <li>・デジタル教科書やNHK for school を活用</li> <li>・ニュースや新聞で取り上げられた事柄に対する考えを発表</li> <li>・子ども自身で学習を進める自由進度学習</li> <li>【理科】</li> <li>・NHK for school を活用</li> <li>・自分の予想や考察をするための時間を確実に確保する</li> <li>【様々な教科で】</li> <li>・自分の言葉でまとめを書く</li> <li>・聞き手に伝わりやすいプレゼンテーションの仕方について、適切な資料の選び方を中心に練習（タブレット活用）</li> </ul>	

市町村によっては、学校数が少ないところもあるかと思いますが、小学校と中学校の接続を意識した取組の共有や、複数の市町村で広域的な情報交換を行う際にも実践できることで、ぜひ参考にいただければと思います。

### B 北総教育事務所の取組

北総教育事務所では、全国学力・学習状況調査の結果を受け、各学校に対して、「推進体制の構築」「授業改善」「教育課程の編成」「家庭との連携」の4つの視点を柱として具体的な手立てを講じるよう、市町村教育委員会と連携を図りながら指導・助言に当たっています。このことで、「どのような取組がどのような成果につながったのか」「継続的な課題に対し別の策を講じる必要があるか」など定期的に評価することができ、教育事務所としての指導・助言の際に活用できることはもちろん、各学校の検証改善サイクルの確立にもつながっています。